

地域でのいきいきとした生活を応援します！

# 回復期リハビリテーション病棟に入られる方へ



地域にもどるための準備の場所です



## 回復期リハビリテーション病棟とは

当院のB1階にあります。主に急性期の治療後に入る病棟で、引き続き治療が必要、退院に向けた心身の回復期間が必要、社会的・心理的な支援の準備が必要といった方が対象です。

### ●回復期リハビリテーション病棟の対象となる疾患と入院期間

※ 回復期リハビリテーション病棟は、対象となる疾患と入院期間が定められています。

対象となる疾患	入院期間
脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症後若しくは手術後の状態又は義肢装着訓練を要する状態	150日
高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷	180日
大腿骨、骨盤、脊椎、股関節若しくは膝関節の骨折又は二肢以上の多発骨折の発症後又は手術後の状態	90日
外科手術又は肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後又は発症後の状態	90日
大腿骨、骨盤、脊椎、股関節若しくは膝関節の神経、筋又は靭帯損傷後の状態	60日
股関節又は膝関節の置換術後の状態	90日

## 多職種協働による支援とリハビリテーションの役割

回復期リハビリテーション病棟では、入院後すぐに多職種が介入し支援を開始します。右図のように、利用者さんの抱える問題を中心に据え、利用者さんと多職種が力を合わせて問題の解決に取り組みます。高齢の方の入院が増加している近年は、起きる、食べる、歩く、排泄、入浴など「生活の質」につながる日常生活動作の維持・向上が重要であり、特にリハビリテーションの担う役割が大きくなっています。当病棟では、「地域でどのようにいきいきと生活を送れるか」を目標・課題とし、最大限に生活再建の準備を図ります。

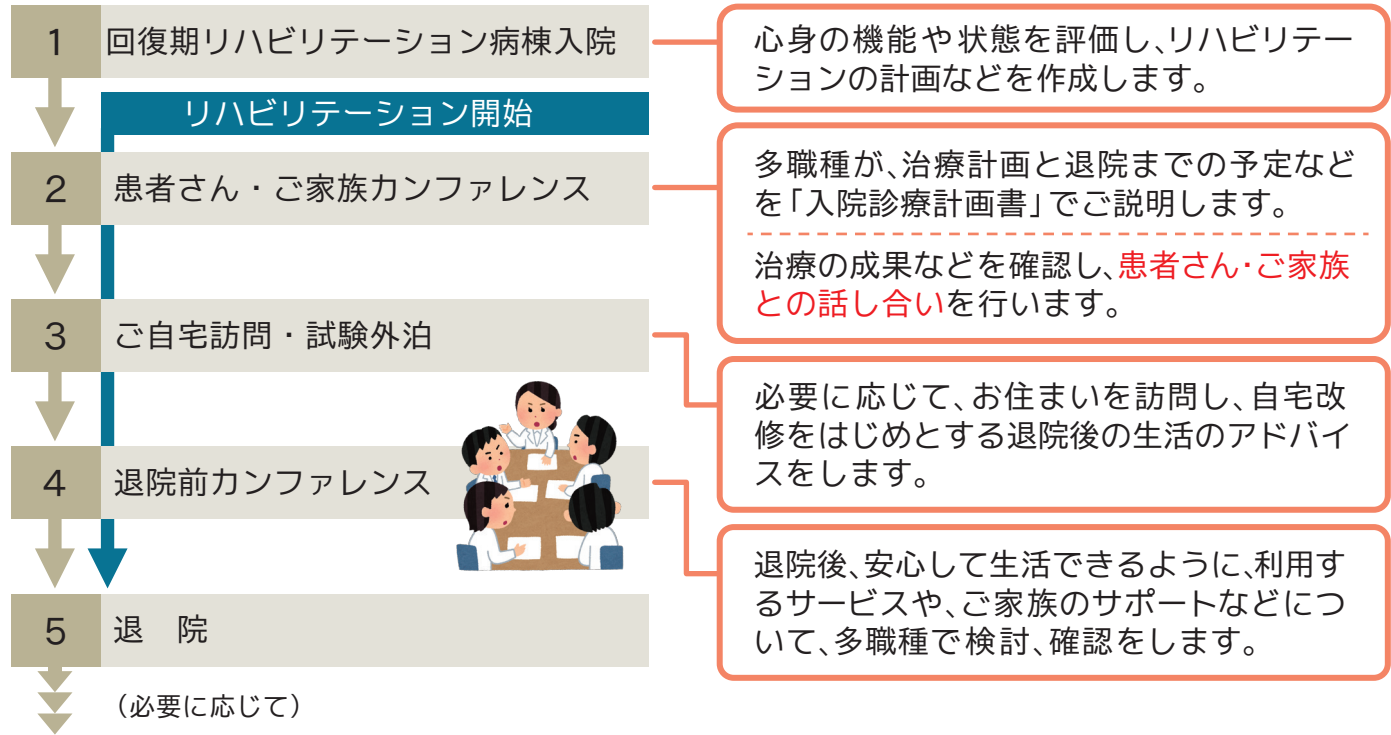


回復期リハビリテーション病棟長  
富田 寛 (とみた かん)  
リハビリテーション科部長  
日本外科学会認定登録医  
日本消化器外科学会消化器外科認定医

利用者さんと一緒に“多職種協働”



## 回復期リハビリテーション病棟入院から退院までの流れ

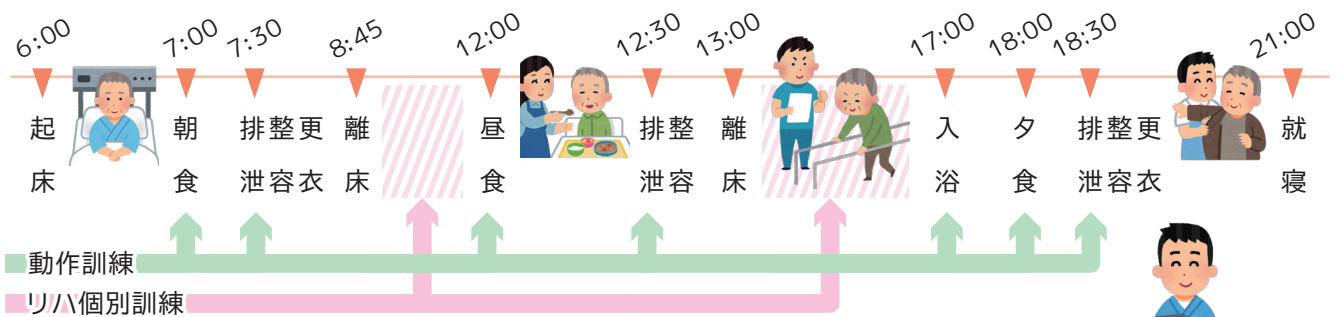


### ★ 医療・介護・福祉・生活支援サービスの利用

●訪問系のサービス ●通所系のサービス ●居住系のサービスなど  
サービスを利用するためのご相談などは、「医療ソーシャルワーカー」や「ケアマネジャー」が対応します。



## 回復期リハビリテーション病棟における一日の流れ



## 当院の病棟と病床機能

当院はDPC対象病院です。

病棟階	病床機能・入院料等		病床数(183床)
7階	急性期	急性期一般入院料1	16床
6階	慢性期	障害者施設等入院基本料 10対1	30床
4階	急性期	急性期一般入院料1	35床
3階	急性期	地域包括ケア病棟入院料1	45床
2階	高度急性期	急性期一般入院料1	15床
B1階	回復期	回復期リハビリテーション病棟入院料3 (※一部、地域包括ケア入院医療管理料1)	42床 (※うち24床)